

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】 第 1 部門第 1 区分

【発行日】 平成 19 年 10 月 18 日 (2007.10.18)

【公表番号】 特表 2003-511071(P2003-511071A)

【公表日】 平成 15 年 3 月 25 日 (2003.3.25)

【出願番号】 特願 2001-530472(P2001-530472)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)
A 6 1 K 31/7088 (2006.01)
A 6 1 K 39/395 (2006.01)
A 6 1 K 48/00 (2006.01)
A 6 1 P 3/00 (2006.01)
A 6 1 P 9/00 (2006.01)
A 6 1 P 9/10 (2006.01)
A 6 1 P 17/16 (2006.01)
A 6 1 P 25/18 (2006.01)
A 6 1 P 35/00 (2006.01)
A 6 1 P 37/00 (2006.01)
A 6 1 P 37/08 (2006.01)
A 6 1 P 39/00 (2006.01)
A 6 1 P 39/06 (2006.01)
A 6 1 P 43/00 (2006.01)
C 0 7 K 14/16 (2006.01)
C 0 7 K 14/47 (2006.01)
C 0 7 K 16/10 (2006.01)
C 0 7 K 16/18 (2006.01)
C 0 7 K 19/00 (2006.01)
C 1 2 N 1/15 (2006.01)
C 1 2 N 1/19 (2006.01)
C 1 2 N 1/21 (2006.01)
C 1 2 N 9/99 (2006.01)
C 1 2 P 21/02 (2006.01)
C 1 2 N 5/10 (2006.01)
A 6 1 K 38/00 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A
 A 6 1 K 31/7088
 A 6 1 K 39/395 D
 A 6 1 K 39/395 N
 A 6 1 K 48/00
 A 6 1 P 3/00
 A 6 1 P 9/00
 A 6 1 P 9/10
 A 6 1 P 17/16
 A 6 1 P 25/18
 A 6 1 P 35/00
 A 6 1 P 37/00
 A 6 1 P 37/08
 A 6 1 P 39/00

A 6 1 P 39/06
 A 6 1 P 43/00 1 0 5
 C 0 7 K 14/16
 C 0 7 K 14/47
 C 0 7 K 16/10
 C 0 7 K 16/18
 C 0 7 K 19/00
 C 1 2 N 1/15
 C 1 2 N 1/19
 C 1 2 N 1/21
 C 1 2 N 9/99
 C 1 2 P 21/02 C
 C 1 2 N 5/00 A
 A 6 1 K 37/02

【手続補正書】

【提出日】平成19年8月31日(2007.8.31)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 共有結合によって連結された第1のドメインおよび第2のドメインを含むキメラペプチドであって、該第1のドメインが輸送配列を含み、そして該第2のドメインがJNKインヒビター配列を含み、該キメラペプチドがD-レトロインベルソー鏡像異性アミノ酸を含む、キメラペプチド。

【請求項2】 前記輸送配列が、配列番号9または10のアミノ酸配列を含む、請求項1に記載のペプチド。

【請求項3】 前記輸送配列が、前記ペプチドの細胞性取り込みを増大させる、請求項1に記載のペプチド。

【請求項4】 前記輸送配列が、前記ペプチドの核局在化を指向する、請求項1に記載のペプチド。

【請求項5】 前記輸送配列が、ヒト免疫不全ウイルスTATポリペプチドのアミノ酸配列を含む、請求項1に記載のペプチド。

【請求項6】 前記JNKインヒビター配列が：

(a) 280アミノ酸長未満であり；そして

(b) 配列番号3または4のアミノ酸配列を含む、請求項1に記載のペプチド。

【請求項7】 前記JNKインヒビター配列が、JNKに結合する、請求項1に記載のペプチド。

【請求項8】 前記JNKインヒビター配列が、少なくとも1つのJNK標的化転写因子の活性化を阻害する、請求項1に記載のペプチド。

【請求項9】 JNK標的化転写因子が、c-Jun、ATF2、およびElk1からなる群より選択される、請求項8に記載のペプチド。

【請求項10】 前記JNKインヒビター配列が、JNK発現細胞中に導入される場合、JNK誘導効果を変える、請求項1に記載のペプチド。

【請求項11】 請求項10に記載のペプチドであって、ここで、前記JNK誘導効果が、再狭窄、腫瘍形成形質転換、免疫細胞の成熟および分化、炎症誘発性サイトカイン、放射線治療において使用されるイオン化放射、紫外線光、フリーラジカル、DNA損傷

因子、化学療法薬剤、虚血、再灌流、低酸素症、低体温症、過温症、アポトーシスならびにストレス性刺激に対する応答からなる群より選択される、ペプチド。

【請求項 12】 前記 JNK インヒビター配列が、配列番号 3 のアミノ酸配列を含む、請求項 6 に記載のペプチド。

【請求項 13】 前記 JNK インヒビター配列が、配列番号 4 のアミノ酸配列を含む、請求項 6 に記載のペプチド。

【請求項 14】 前記輸送配列が、配列番号 8 のアミノ酸配列を含む、請求項 1 に記載のペプチド。

【請求項 15】 前記 JNK インヒビター配列が、配列番号 3 および配列番号 4 からなる群より選択されるアミノ酸配列を含む、請求項 14 に記載のペプチド。

【請求項 16】 配列番号 3 および配列番号 8 のアミノ酸配列を含む、キメラペプチド。

【請求項 17】 配列番号 4 および配列番号 8 のアミノ酸配列を含む、キメラペプチド。

【請求項 18】 配列番号 14 のアミノ酸配列を含むペプチド。

【請求項 19】 配列番号 15 のアミノ酸配列を含むペプチド。

【請求項 20】 280 アミノ酸長未満のペプチドであって、ここで該ペプチドが配列番号 2 のアミノ酸配列を含む、ペプチド。

【請求項 21】 280 アミノ酸長未満のペプチドであって、ここで該ペプチドが配列番号 6 のアミノ酸配列を含む、ペプチド。

【請求項 22】 請求項 21 に記載のペプチドであって、ここで該ペプチドが、配列番号 1、配列番号 2、配列番号 3、および配列番号 4 からなる群より選択されるアミノ酸配列を含む、ペプチド。

【請求項 23】 前記ペプチドが 50 アミノ酸長未満である、請求項 21 に記載のペプチド。

【請求項 24】 前記ペプチドが c-jun アミノ末端キナーゼ (JNK) に結合する、請求項 21 のペプチド。

【請求項 25】 前記ペプチドが、JNK 発現細胞に存在する場合、該ペプチドが、少なくとも 1 つの JNK 標的化転写因子の活性化を阻害する、請求項 21 に記載のペプチド。

【請求項 26】 前記 JNK 標的化転写因子が、c-Jun、ATF2、および Elk1 からなる群より選択される、請求項 25 に記載のペプチド。

【請求項 27】 前記ペプチドが、JNK 発現細胞中に存在する場合、該ペプチドが、JNK 効果を変える、請求項 21 に記載のペプチド。

【請求項 28】 請求項 27 に記載のペプチドであって、ここで、前記 JNK 誘導効果が、再狭窄、腫瘍形成形質転換、免疫細胞の成熟および分化、炎症誘発性サイトカイン、放射線治療において使用されるイオン化放射、紫外線光、フリーラジカル、DNA 損傷因子、化学療法薬剤、虚血、再灌流、低酸素症、低体温症、過温症、アポトーシスおよびストレス性刺激に対する応答からなる群より選択される、ペプチド。

【請求項 29】 請求項 1～28 のいずれかに記載のペプチドをコードする単離された核酸。

【請求項 30】 請求項 29 に記載の核酸を含むベクター。

【請求項 31】 請求項 30 に記載のベクターを含む細胞。

【請求項 32】 請求項 1～28 のいずれかに記載のペプチドおよび薬学的に受容可能なキャリアを含む薬学的組成物。

【請求項 33】 請求項 29 に記載の核酸および薬学的に受容可能なキャリアを含む薬学的組成物。

【請求項 34】 請求項 1～28 のいずれかに記載のペプチドに免疫特異的に結合する抗体。

【請求項 35】 請求項 34 に記載の抗体および薬学的に受容可能なキャリアを含む

薬学的組成物。

【請求項 36】 被験体において J N K の活性化に関連する病態生理学を処置するための組成物であって、細胞透過性生物活性ペプチドを含み、ここで該ペプチドが細胞内 J N K シグナル伝達を妨げる、組成物。

【請求項 37】 前記ペプチドが、請求項 1 ～ 28 のいずれかで定義されるペプチドである、請求項 36 に記載の組成物。

【請求項 38】 前記ペプチドが、配列番号 2 ～ 4、および 6 ～ 18 からなる群より選択される任意の 1 つのアミノ酸配列を含む、請求項 36 に記載の組成物。

【請求項 39】 前記ペプチドが、少なくとも 1 つの J N K 標的化転写因子の活性化をブロックする、請求項 36 に記載の組成物。

【請求項 40】 前記 J N K 標的化転写因子が、c - J u n、A T F 2、および E l k 1 からなる群より選択される、請求項 39 に記載の組成物。

【請求項 41】 前記 J N K 標的化転写因子が、c - J u n である、請求項 39 に記載の組成物。

【請求項 42】 請求項 36 に記載の組成物であって、ここで前記病態生理学が、再狭窄、腫瘍形成質転換、免疫細胞の成熟および分化、炎症誘発性サイトカイン、放射線治療において使用されるイオン化放射、紫外線光、フリーラジカル、D N A 損傷因子、化学療法薬剤、虚血、再灌流、低酸素症、低体温症、過温症、アポトーシスおよびストレス性刺激に対する応答からなる群より選択される、組成物。

【請求項 43】 前記組成物が、腹腔内、鼻内、静脈内、経口およびパッチ送達からなる群より選択される任意の 1 つの投与経路による送達に適している、請求項 36 に記載の組成物。

【請求項 44】 ペプチドを調製する方法であって、該方法は、以下：

(a) 本発明のペプチドの発現をもたらす条件下で請求項 31 に記載の核酸を含む細胞を培養する工程；および

(b) 発現したペプチドを回収する工程、
を包含する、方法。

【請求項 45】 被験体での J N K の活性化に関連する病態生理学を処置するための医薬の製造における、請求項 1 ～ 28 のいずれかに記載のペプチドまたは細胞内 J N K シグナル伝達を妨げる細胞透過性生物活性ペプチドの使用。

【請求項 46】 被験体での J N K の活性化に関連する病態生理学を処置するための医薬の製造における、請求項 29 に記載の核酸配列または細胞内 J N K シグナル伝達を妨げる細胞透過性生物活性ペプチドをコードする核酸配列の使用。